

愛知大学大学院 入学試験 <国際コミュニケーション研究科>

修士課程

国際コミュニケーション 研究科	<一般・外国人留学生入試>
外国語（問題用紙）	
科目名	日本語

(試験時間 60分)

次の文章を読んで、設問に答えなさい。

<第一印象のわな 有能に見える人、選んでない？>

今年世界各地で重要な選挙が行われる「選挙イヤー」だという。米国では大統領選、日本でも自民党総裁選、総選挙と続いた。

心理学を専門とするシカゴ大のアレクサンダー・トドロフ教授は、2人の政治家候補の顔写真を見せ、どちらが当選するかを予測させる研究を世界各地で行っている。米国でも日本でもブラジルでも「第一印象」によって約7割が当選者を言い当てることができ、子どもでも同じ結果が得られるという。

著書「第一印象の科学」によると、判断を下すのに必要な時間は0・1秒。人は「より有能に見える」候補者を、本能的に選んでいるという。

では、第一印象が常に正確かといえば、そんなことはないともトドロフ教授は指摘する。たとえば同じ人物でも、表情や写真の撮り方によって印象は大きく異なる。「犯罪者は凶悪な顔」「攻撃的な顔のスポーツ選手は反則しやすい」など、私たち自身が抱くバイアスによっても大きく左右される。

第一印象で損をすることが多い私は、この指摘に激しくうなずいた。「第一印象差別」とも言える現象は、日常生活のあらゆるところに潜んでいる。

その一つが、履歴書に添付する顔写真だろう。中京大講師の矢吹康夫さんは、企業の人事担当者818人に、1人につき8枚の架空の履歴書を見せ、書類選考を通る可能性を評価してもらった。履歴書には特徴のない顔のほか、茶髪、顔に赤いあざがあるなど加工した写真を添付した。

その結果、最も低い評価を受けたのは円形脱毛症の男性で、肥満の女性、茶髪の男性、顔にあざがある男性と続いた。茶髪は女性より男性の方が、肥満は男性より女性の方が低く評価されるというジェンダーバイアスも明らかになった。

「思っていた以上に、露骨に影響が出た」と矢吹さん自身も驚いたという。

「履歴書への顔写真貼付（ちょうふ）は、有望な人を写真だけで落としてしまう可能性も、見た目だけの無能な人を選んでしまう可能性もある。本人確認はほかの方法でもできるわけで、企業にとってもデメリットが大きい。写真があることで公平な採用が妨げられるなら、なくすべきです」

この話を聞きながら、以前、取材で聞いた話を思い出した。

外見のバイアスを排除するため、1970年代以降、米国の多くの交響楽団がカーテン越しに団員を審査する方法を採るようになった。当初は多くの楽団監督が「我々は外見には左右されない」とこの方法に反対したそうだが、ところがこの採用方法を採って以来、女性演奏家の割合は5%から35%に増えたという。

国は2021年に履歴書の様式例を変え、「男・女」の選択欄を、任意記載にした。米国や英国などでは性別はもちろん、顔写真も求めることはほとんどない。採用する上でノイズとなり得る情報はできるだけ省こうということだろう。

性別、年齢、人種、障害……。顔写真はさまざまな情報とバイアスを与える。だから、選挙ポスターだけを見て投票者を決めることはゆめゆめあってはならないし、書類選考に使われる資料に顔写真は不要だろう。

ちなみに人々が「有能だ」と考える顔は、その時代の空気によっても変わるそうだが、各国のリーダーの顔を思い浮かべながら、今の有権者が政治家に求める能力について、しばし考えた。

(「朝日新聞」朝刊(多事奏論) p.13, 2024.11.29)

【設問】

問1. 上の文章を200～400字で要約せよ。

問2. 現代社会において問題となっているバイアスの例を2つ以上具体的に述べた上で、それらのバイアスがあるために考え得るデメリットを600字以下で述べよ。

入学年度および実施時期	2025年度 第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	国際コミュニケーション研究科
専攻・コース等	
入試方式	一般・外国人留学生入試
科目名	外国語（日本語）
試験実施日	2025年2月12日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

現代社会における社会的偏見、バイアスに関する新聞記事を題材に、1. 日本語読解力、2. 要約力、3. 論理的記述力、4. 社会問題への理解力の4点を総合的に評価することを目的としている。

問1では、文章全体の構造（問題提起—具体例—提言）を正確に把握し、重要な因果関係を正確に理解した上で200～400字に適切な日本語でまとめる要約力を問う。

問2では、本文を踏まえて自らの知識・考察を展開する力を確認する。具体的な社会的バイアスの事例（例：外見、性別）を挙げ、それらの偏見が社会に与える悪影響を論理的に説明できるかどうかを問う。

外国人留学生の日本語力を評価する試験のため、1. 文法・語彙力を評価することを目的とするが、同時に、大学院レベルでのアカデミックスキルが身に付いているかを評価する試験でもあるため、2. 論文の内容、3. 文章の構成も重視して採点を行う。

【解答例（採点時の観点）】

問1

（解答例）

人は第一印象で得られる外見の情報から相手の内面や能力を評価する。しかし、その評価が常に正確とは言えない。また、外見的特徴が起因して有望な人物が不利益を被る、あるいは見た目だけ優れた人が有利になるという公平さに欠けた現象があるため、第一印象による評価は、公平性を損なう恐れがある。外見的特徴以外にも、性別、年齢、人種に対する偏見が不公平な評価に導くこともある。これらの情報を排除し、能力に基づいて判断できる仕組みが必要である。（212字）

（採点時の観点）

・「第一印象や外見による判断が公平性を損なう」という文章の主題が的確に捉えられているか。

・「顔写真から得られる性別、年齢、人種、障害等、「ノイズ」となり得る情報を省き、公平性を確保するべきだ」という筆者の主張が記されているか。

・決められた字数内で、正しい文法、読みやすい構成を意識した要約が書けているか。

※200～400字が守られていなかった場合は減点対象

問2

（解答例）

現代社会には人々が無意識に抱く偏見、バイアスが存在し、能力や努力とは関係なく評価を左右している。ここでは3つ例をあげ、その影響を述べたい。

第一に「学歴への偏見」である。有名な大学出身者は、無条件に有能とみなされることがある。実際の能力や成果よりも出身大学が重視されると、個々の人物が持つ能力への評価にゆがみが生じ、職場の公平性が損なわれる。結果として、有名大学出身者以外の社員の士気が下がり、組織全体の活力が低下する恐れがある。

第二に「出身地や国籍に関する偏見」である。「〇〇出身の人はこういう性格だ」、「××人は協調性に欠ける」といった偏見や思い込みは、社会的な分断や排除を強める。それが、ヘイトスピーチなどの大きな社会問題に発展することがある。

第三に「年齢に関する偏見」である。若者は経験不足、高齢者は柔軟性がないといった通念は、新しいことへの挑戦や再教育の機会を奪う結果をもたらす。また、これらの偏見が起因して、世代間の断絶が広がった場合、知識や技能を後世に伝える妨げとなる可能性もある。

これらの偏見は、いずれも公平で公正な評価を妨げるのみならず、「評価される人」と「評価されない人」との間に無用な軋轢が生じ、社会にとってはデメリットしかない。外から見える条件ではなく、その人物の内面が評価される社会を目指すことが求められている。(568字)

(採点時の観点)

- ・現代社会に存在するバイアスの例を2つ以上記述しているか。
- ・各バイアスがもたらす不利を論理的、かつ具体的に説明できているか。
- ・事例の説明と筆者自身の考察に齟齬がないか。
- ・決められた字数内で、正しい文法、読みやすい構成を意識した文章が書けているか。

※600字以下が守られていなかった場合は減点対象

【専門科目】修士課程

第2期実施分の「必修・問1」問題文は著作権上の都合により掲載しておりません。

愛知大学大学院 入学試験 Ⅱ期 <国際コミュニケーション研究科>

修士課程

国際コミュニケーション 研究科	<一般・外国人留学生入試>
専門科目 (問題・解答用紙)	
科目名	必修・問2

(試験時間 50分)

問2

現在、DeepLやGoogle レンズをはじめとする機械翻訳の技術進歩は目覚ましく、翻訳精度もかなりのレベルまで上がってきている。

また、その機械翻訳の利用についても、音声・文字・画像入力といった入力形式に関わらず、各自が所持しているスマートフォンで手軽に操作できる状況である。このような状況にあって外国語を学習する意味について自分の考えを述べなさい。

入学年度および実施時期	2025 年度第 2 期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	国際コミュニケーション研究科
専攻・コース等	
入試方式	一般・外国人留学生入試
科目名	専門科目 必修 問 1
試験実施日	2025 年 2 月 12 日

解答又は解答例及び出題意図

(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

「問題文の表記に齟齬があったため、修正を施した上で出題意図、 解答例を付している」

【出題意図】

専門科目(必修)は、国際問題やコミュニケーションに関する様々な領域についての読解力や思考力を問うような出題となっている。問 1 では 1 ページ(400~500 語)程度の英語論説文が提示され、概ね 400 語程度の英文でその内容を要約しつつ、自身の意見を書くことが求められている。そこでは、研究活動に必要となる、英文資料の正確な読解力と、その内容に対しての自身の考えを**正確な英文で伝える作文力が問われることになる**。なお、論説文の英語レベルとしては、一般的な新聞や雑誌などの記事を想定している。

今回の問題文は、著作権の都合上、掲載されていないが、内容は、「アニメにおける言語使用と、それを日本語学習に用いることの問題点」について述べたものである。

まず、要約においては、以下の内容が記載されることが望ましい。

- ・アニメは日本語や日本文化を学ぶ入口になるが、そこには制限もある。
- ・様々な語句を学ぶことはできても、文法を学ぶことは難しい。
- ・例えば、動詞は英語と異なり、文末に置かれる。
- ・アニメでは形式ばらない会話が多く用いられるが、実際の日本語使用では、丁寧さについて気を配る必要がある。
- ・2 人称の「あなた」を直接使用することを避ける、といった規則もある。
- ・歴史的なアニメでは、独特な言語使用をする場合もあり、それは現代の日本語とは異なるものである。
- ・字幕使用などで音と形式の関連を学ぶことは可能だが、それだけでは包括的な言語能力の育成には不十分である。

また、自身の意見については、上記の要旨を踏まえた上で「アニメを通して外国語を学ぶことの利点」について思うところを書くように求めている。上記の要約を踏まえた上でも、切り口は複数考えら

れるため、下記の解答例はあくまでひとつの参考例としてとらえていただきたい。また、採点時には、当該意見が「正しい」かどうかではなく、「本文を理解したうえで、関連した議論を展開しているか」や「言いたいことが明確に英文で述べられているか」といったところを主に確認する。

【解答例】

(Summary)

Anime is a popular gateway for learning about Japanese culture and language, but it has clear limitations as a learning tool. While watching anime can help viewers pick up vocabulary and memorable phrases, it is not effective for understanding Japanese grammar, which has many important rules.

For instance, Japanese sentence structure differs greatly from English, with verbs typically placed at the end. Anime dialogue is often informal, which may confuse learners, since real Japanese communication requires careful attention to politeness levels. You shouldn't use the personal pronoun “*anata* (=you)” directly when talking to someone. Furthermore, Japanese includes particles and expressions that have no direct English equivalents. It must be difficult to grasp these rules through anime alone.

Some anime genres also use peculiar or exaggerated expressions that does not reflect everyday Japanese. Historical anime, for example, may include archaic words which are not used in modern conversation. Anime rarely teaches viewers how to use *keigo*, the complex system of polite speech needed in many social situations.

Although subtitles may help learners associate sounds with meanings, they do not teach reading or writing skills, which are essential for full language ability.

(Opinions)

Watching Japanese anime in the original Japanese can have benefits when you learn Japanese.

First of all, using subtitles makes it possible to see the relationship between spoken and written language, which is a big advantage for learners. Because Japanese uses three writing systems - hiragana, katakana, and kanji. It can be difficult for learners to consider which system to be used for a given expression. Subtitles do not always reflect everything, but they can solve this problem to a certain extent.

It is certainly true that you need to be careful about using honorific language and the unique expressions used in historical works, but rather than worrying too much about it, it is also possible to learn by simply using the language and correcting it in actual conversation.

For example, if a learner asks a Japanese native speaker a question *そうござるか?* (*Sou gozaru-ka?*), the Japanese speaker will find it strange, and want to point out that this is an archaic expression. However, it is still understandable, and it could lead to a further conversation about anime or the Japanese language.

The important thing is to be aware of the points mentioned in the passage, while also remembering

the positive aspects, and to actively use Japanese as much as possible. This way, anime works can be of great help in learning Japanese.

愛知大学大学院 入学試験Ⅱ期 <国際コミュニケーション研究科>

修士課程

国際コミュニケーション 研究科	<一般・外国人留学生入試>
専門科目 (問題用紙)	
科目名	選択 言語コミュニケーション (日本語)

(試験時間 60分)

下のA題またはB題のどちらかを選び、問いに答えよ。なお、2題とも解答した答案は、無効とする。

A題

近年、外国語教育の目標は、母語話者のような言語の使い手になることより、言語や文化の違いを超えて相互理解ができるようになることに重点が置かれるようになってきた。

この背景にある社会変化及び研究パラダイムの変化について論じよ。ただし、下のキーワードを4つ以上使用して論述すること。

キーワード

- | | | | |
|------------|---------|----------------|---------------|
| 1. 複文化・複言語 | 2. 共生社会 | 3. 社会文化的アプローチ | 4. OECD |
| 5. 多文化・多言語 | 6. 行動主義 | 7. 構成主義 (構築主義) | 8. CEFR 9. 戦争 |

B題

近年、国内では、グループ・ワークやディスカッション、プレゼンテーション、自己評価といったアクティブ・ラーニング (能動的学修) の手法を取り入れる日本語学校が増えている。これらの活動によって学習者は、言語能力のほか、どのような資質や能力を伸ばすことが期待されるか。その根拠となる枠組みを示しつつ、下のキーワードを4つ以上使用して論述せよ。

キーワード

- | | | | | |
|-----------------|-----------|-----------|----------|---------|
| 1. 主体的・対話的で深い学び | 2. Can-Do | 3. 学習指導要領 | 4. 基本的欲求 | 5. 内省 |
| 6. ラーニングコンパス | 7. 生きる力 | 8. 社会人基礎力 | 9. 問題解決 | 10. 流暢さ |

入学年度および実施時期	2025年度 第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	国際コミュニケーション研究科
専攻・コース等	
入試方式	一般・外国人留学生入試
科目名	専門科目（必修）
試験実施日	2025年2月12日
解答又は解答例及び出題意図 （試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）	
<p>【出題意図】</p> <p>大学院では、知識を羅列するだけではなく、複数の理論・概念を統合して論述する能力が求められます。与えられたキーワードから4つ以上を使うという形式で、概念間の関連性を自分で構造化し、論としてまとめる力を測っています。</p> <p>【解答例（採点時の観点）】</p> <p>A題のキーワードには、2000年代以降の外国語教育の大きなパラダイム転換を示す概念が含まれています。従来の言語観・学習観・能力観がどのように変わり、なぜ変わらざるを得なかったのかについて、その理解度を測っています。歴史的な位置づけ、理論的背景、旧パラダイムの問題点を含んで論ずることが望まれます。</p> <p>また、キーワードの中には専門用語だけでなく、社会的・国際的テーマに関する語も含まれています。これは、現代社会と外国語教育の接続を理解し、自身の教育観を社会や国際情勢と関連づけて議論できるかを試すものです。</p> <p>B題のキーワードには、日本の教育政策、欧州のCEFR、自律学習を支える教育心理学的理論、社会的構成主義等の枠組みを示唆する語が含まれています。これらの枠組みを汲み取れば、それぞれがどのような資質・能力の育成を目指しているかもわかるはずです。</p> <p>また、これらの枠組みは、アクティブ・ラーニングのような教育実践において、相互に関連しているため、これらすべてを取り上げる必要はありませんが、複数の枠組みを統合して論理的に説明することが望ましいです。例えば、プロジェクト・ワークでは、学習者が目的設定や情報収集、役割分担を自ら行うことで主体性が高まり、協働的な対話を通して理解が深化します。この考え方の背後には、知識を他者との相互作用で構成する社会的構成主義があります。</p>	

入学年度および実施時期	2025年度 第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	国際コミュニケーション研究科
専攻・コース等	
入試方式	社会人特別入試
科目名	小論文（問1）
試験実施日	2025年2月12日

解答又は解答例及び出題意図
（試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと）

【出題意図】

- 「まなざし」は観光研究で議論されてきた基礎概念であり、それをとおして観光研究に関する知識・理解度を測る。
- 観光と教育の関係は、修学旅行に見るように、けっして珍しいものではなく、効果的に関連しうる。その一方で、楽しみの介在によって対極的にも位置づけられうる概念である。こうした関係をふまえたうえでの知識・知恵・論述力を測る。

【解答例（採点時の観点）】

「まなざし（the tourist gaze）」とは、観光者が世界をどのように見るかを方向づける社会文化的枠組みを指す。観光者は自由に風景を眺めているように見えて、その視線は教育やメディアなどによって構成されている。観光と教育の関係を考える上では、この「どのように見る主体がつくられるか」という点が重要になる。

まず、教育は観光者のまなざしを事前に形づくる役割を持つ。学校教育や教科書、博物館展示などは、何を価値あるものとみなし、どこに注目すべきかという判断基準を提供する。世界遺産を「普遍的価値」「歴史的意義」で理解する枠組みも教育によって獲得される文化資本である。観光者は教育背景によって同じ風景を異なる意味で読み取るため、観光は教育的知識に支えられた認識行為といえる。

同時に、観光は教育的プロセスとしても働く。異文化や新しい環境との出会いは、既存の知識や価値を相対化し、学習と気づきを生む。特に異文化観光では、ステレオタイプと現地経験のズレが反省的学習を促す。フィールドワーク型教育やエデュツーリズムは、観光経験が直接的な学びとなる代表例である。

さらに、観光と教育は互いにまなざしを再生産する循環関係にある。教育が観光の視線を形成し、観光経験が教育言説や教材へ取り込まれる。しかしこの循環は、「南の島＝癒し」「先住民文化＝素朴」といった固定的イメージを強化する危険もある。したがって、批判的観光教育は、まなざしの制度性を自覚し、多様な視点をもつ力を育てる必要がある。

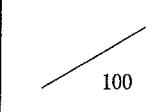
現代のSNSは新しいまなざしを生み出し、写真映えを重視する視線は観光地の価値づけを変える。他方、デジタル媒体は学習ツールとしても有効であり、その二面性を理解した教育的支援が求められる。

以上より、観光と教育は互いにまなざしを形成し続ける動的関係にあり、教育は観光経験を深め、観光は教育に新たな視点を提供する。

愛知大学大学院 入学試験 Ⅱ期 <国際コミュニケーション研究科>

修士課程

国際コミュニケーション 研究科	<社会人特別>
小論文 (問題・解答用紙)	
科目名	小論文 (問2)

採 点	
--------	---

(試験時間 90分)

受 験 番 号

問2 近年、様々なところで脱植民地化が取り組まれている。脱植民地化という言葉の定義を説明した上で、特に教育における脱植民地化とその意義について例を挙げて論じなさい。

入学年度および実施時期	2025年度 第2期
修士課程・博士課程の別	修士課程
実施研究科	国際コミュニケーション研究科
専攻・コース等	
入試方式	社会人特別入試
科目名	小論文
試験実施日	2025年2月12日

解答又は解答例及び出題意図
(試験問題自体を公開しない場合はその理由を示すこと)

【出題意図】

- 「脱植民地化」は近年注目されている概念である。それをとおして文化研究に関する知識・理解度を測る。
 - 植民地化と教育の関係性についての知識を測る。「教育」が単なる知識の伝達ではなく、価値観を構築する場であることを理解しているかがポイントとなる。
- 以上を通して、修士課程で文化研究を遂行するための基礎知識、論述力を備えているかを測る。

【解答例（採点時の観点）】

脱植民地化（decolonization）は本来、植民地が宗主国から独立し、政治的な主権を取り戻すことを意味する。しかし近年、「脱植民地化」という言葉は、政治や歴史だけでなく、文化、研究、教育など多くの場面で、より広い意味をもつ言葉として使われるようになった。なぜなら、植民地支配が終わった後も、その価値観や思考の枠組みが社会に残り、支配する側の考え方が「当たり前」や「正しいもの」として受け継がれていることが多いからである。したがって脱植民地化とは、「表向きの支配が終わったあとも残る不平等な考え方や制度を見直し、より公正な形へと変えていく取り組み」と言える。

こうした脱植民地化が特に重要とされるのが教育である。教育は、知識を次の世代に伝える場であり、「何を学ぶべき知として認めるか」を決める力を持つ。そのため、植民地主義的な価値観が教育の内容に入り込むと、支配する側の歴史や文化だけが重視され、マイノリティや先住民の経験は周縁に追いやられることがある。

教育における脱植民地化とは、こうした状況を見直すことを意味する。そこでは、単に先住民やマイノリティの視点から歴史をながめるだけでなく、これまでの歴史において「誰が語り、誰が沈黙させられてきたのか」「なぜ教えられてこなかったのか」という点を考えることが重要である。つまり、教育の脱植民地化とは、これまで教育現場で「当たり前」とされてきた知識そのものを問い直す作業と言える。

具体例としては、カナダやアメリカで進む先住民教育の改革が挙げられる。これらの国では、かつて寄宿学校政策によって先住民諸部族の言語や文化が否定され、同化を強制された歴史がある。近年はその反省をふまえ、例えば、ナバホ保留地などの中学校、高校では、先住民諸部族の言語の授業を行い、ナバホ族の若者たちのアイデンティティの拠所としての言語の習得を目指していたりする。また、歴史教科書の記述でも「未開の地」の「開拓」や「文明化」といった表現を見直し、先住民が被った同化政策や強制移住などの植民地主義的暴力を捉え直す動きが広がっている。

教育の脱植民地化には二つの大きな意義がある。第一に、抑圧されてきた人びとの歴史や知識を正当に認め、学問として扱うことで、多様な視点を回復できること。第二

に、学習者が社会の中にある不平等や偏った見方に気づき、それを批判的に考える力を身につけることができることである。つまり、脱植民地化は過去の修正だけではなく、より公平で多様性のある社会の実現につながる教育的実践だと言える。